

2025 陸上競技ダイジェスト

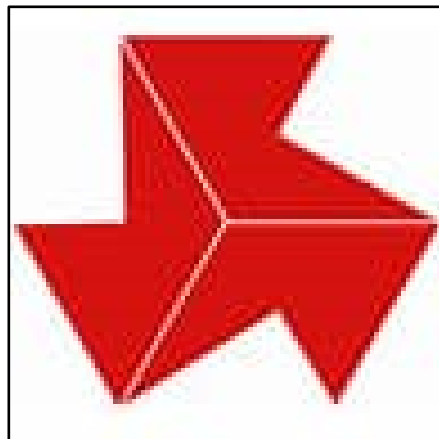
「第78回兵庫県高等学校陸上競技対校選手権大会東播地区予選会」

5月10日(土)～5月11日(日)

加古川運動公園陸上競技場

兵庫県高体連陸上競技部 広報委員会

全国高体連のマーク



K R A F T…力

K U N S T…技

K L A R H E I T…明朗な精神

マークの由来…ドイツ語の3つのKの頭文字をとったもの。「若い力とわざと明朗な精神」を象徴し、真紅の色彩は「高い理想」と「希望に燃える若人の情熱」を象徴している。



男子30校408人、女子26校237人の参加があった今大会は、1日目は湿度の高い曇りの中、2日目は晴天の中競技が進行した。

男子総合優勝は、全種目で得点を獲得した社高校が、198点で9大会連続優勝した。女子総合優勝は、跳躍種目を中心に短距離・投擲種目でも着実に得点を獲得した明石商業高校が、120点で3年ぶりに優勝を飾った。また1日目は時折強い風が吹く中での試合にも関わらず、5種目において大会新記録が誕生した。

〔男子〕

1日目最初の決勝種目であるハンマー投は、清水蓮大(社3)が持ち前のパワーを発揮し初回から61m57の好投を放ち、安定した滑り出しを見せた。中盤の試技でファールを挟みながらも集中力を切らさず、5回目の試技で62m11を叩き出し優勝した。この記録は大会新記録であり、この成果を称え今大会の優秀選手に選ばれた。清水は「今大会はベスト更新を目標に臨みました。1週間を通して調子が悪く、不安のまま迎えた試合のなか練習投擲から自分の理想に近い動きをすることができたことが結果に繋がったと感じます。この結果に満足せず、よりいっそう記録を追い求めていきたいです。」と振り返った。2位は水野光(社2)、3位は蕭理恩(社3)となり、社高校が上位を独占した。

棒高跳は、杉本惺昭(明石商3)がと山田睦明(明石商3)が接戦を繰り広げた。両者とも4m40を成功させたが、無効試技の回数が少なかった杉本が優勝した。2位は杉本、3位には内田琢斗(明石商2)が4m20と続き、明石商業が上位を独占する結果となった。

110mHは、井戸奏太(社3)がスタートから鋭いハードル捌きを見せ、最後まで僅差で並んでいた村田隼(社3)を振り切り、向い風3.1mと悪条件の中14秒74のタイムで優勝を飾った。村田も14秒80の好記録であったが惜しくも2位に。しかし社勢としてはチームとしての強さを存分に示した。

走幅跳は、松永零音(社2)が1回目、2回目と6m61の安定した跳躍を見せるも、3回目は痛恨のファール。迎えた4回目に大きく記録を伸ばす6m82(+2.5)の跳躍を見せ、逆転優勝した。2位には廣長凌(明石3)が序盤に6m64で好スタートを切り、4回目に6m79(+2.0)と追い上げるも、松永を振り切ることはできなかった。

400mは、丘田侑也(加古川北3)がスタートからリズムよく走り、後半もペースを落とすことなくそのままトップでゴール。2位と1秒差をつける47秒85の好タイムで優勝を飾った。2位には豊村宏太(明石清水3)が48秒85、3位には岡田祐幸(三木東総合3)が49秒46と続いた。

3000mSCは、佐伯優月(西脇工3)が序盤から力強い走りを見せ、安定したペースでレースをリード。

9分25秒80のタイムでゴールし、見事に優勝を飾った。2位には中道琉惺（西脇工3）が9分27秒94、3位には七條拓也（西脇工3）が9分35秒07と続き、西脇工で表彰台を独占した。

円盤投は、浅野晁汰（明石商3）が2回目の投擲で43m09を記録し、他の追従を許さずそのまま優勝した。2位は北原楓将（社1）が38m25でスタート。後半に40m19を投げ記録を伸ばしたが、浅野の壁には届かなかった。竹内響（社2）が最終試技で39m77をマーク。安定した投擲を続け、着実に順位を上げ3位に入った。

100mは、山田吾愛仁（社3）が予選において向い風0.7mの中、10秒69で走り抜け大会新記録を樹立。観る者に感動を与えるレースとなった。決勝では山田と大浦文太（明石清水3）がスタートから安定した加速を見せ、ゴールラインまで競り合った。向い風2.0mの中、山田が10秒74で僅差の勝負を制して優勝した。大浦は10秒78でおしくも2位。その差0.04秒と大接戦のレースとなり会場を盛り上げた。

1500mは、新妻遼己（西脇工3）が序盤から積極的にレースを引っ張り、最後まで圧倒的な走りを見せ3分49秒89の大会新記録を樹立。観客席からは大きな拍手が沸き起こった。2位以下は桃木愛希（明石北3）が4分07秒19で2位、岸本周真（西脇工1）が4分07秒30で3位、安達吏玖（高砂2）が4分07秒72で4位と熱戦を繰り広げた。

4×100mRは、社高校が強力な布陣で堂々の走りを見せた。第1走者の濱野翔太（社2）が力強くスタートダッシュを決めると、森安康太（社3）、三木隆之介（社3）と続き、100m覇者の山田吾愛仁（社3）が最後までリードを守り抜いた。記録は40秒52の大会新記録をマークして優勝を飾った。2位は東播磨が42秒18と続き、3位は明石商が42秒37で安定感のある走りを披露した。

2日目最初の決勝種目である**走高跳**は、織邊亘（小野3）が高さを増すごとに集中力を高め、今大会唯一の2m台である2m04の跳躍で見事に優勝を飾った。2位は藤井洸太郎（社1）が1m95をクリアし、1年生ながらハイレベルな戦いを見せた。

砲丸投は、小河琉（社3）が1回目は14m33と好記録でスタートを切り、3回目に14m60と記録を伸ばした。ブラウンチャド叶（明石商3）が3回目に14m64をマークし一時2位に落ちるが、4回目には15m38と今大会唯一の15m台を投げ、逆転優勝を飾った。2位はブラウンチャド叶で14m64。終始14m前後で安定した投擲を披露し、最後まで小河に食らいついたが一歩及ばなかった。

5000mは、赤坂勇輔（西脇工3）と新妻昂己（西脇工3）が序盤から抜け出し、最後まで熱戦を繰り広げた。ラストスパートで抜け出した赤坂が、14分39秒92で優勝を飾った。続く新妻が14分53秒93で2位に入り、西脇工業勢のチームの強さを示した。

三段跳は、中島梓太（社2）が1回目と3回目はファールに終わるも、2回目に14m07を記録。4回目以降徐々に記録を伸ばし、5回目に14m48を跳び1位となると、最終試技で14m63（+0.8）とさらに記録を伸ばし優勝した。2位は3回目に14m30（+2.2）をマークした水野颯真（明石西3）。4回目以降はすべてファールとなり惜しくも追いつくことができなかった。

5000mWは、桑原路太郎（西脇工2）が安定したペースで先頭を守り切り、22分05秒48の好タイムで優勝を飾った。僅差で追いつけた同校の原田壮馬（西脇工2）が22分10秒98で2位に入った。両選手は集中力を切らさず、最後まで正確なフォームを保ち続けた。

800mは、三枝琥珀（西脇工3）が最後まで力強くペースを保ち、接戦を制した。記録は1分54秒71で、2位との差はわずか0.28秒であった。2位の豊村宏太（明石清水3）は1分54秒99の好タイムであったが、三枝に一歩届かなかった。

400mHは、村田隼（社3）がスタートから力強いリズムで走り抜き、最後までハードル間のリズムを崩

さず、粘り強く走り切った結果、54 秒 39 のタイムで優勝を飾った。前日の 110mH では惜しくも 2 位であったため、雪辱を果たした形となった。2 位には佐野悠真（明石清水 2）が 54 秒 56 で続き、わずか 0.17 秒差の白熱した戦いとなった。

200m は、三木隆之介（社 3）がカーブから直線にかけてスムーズな走りを見せ、安定したフォームでゴールし、追い風 0.7m の中 21 秒 78 で優勝した。前日の 400m で優勝した丘田侑也（加古川北 3）は 21 秒 89 で惜しくも 2 位、3 位には森安康太（社 3）が 21 秒 95 をマークし、ハイレベルな戦いとなった。

やり投は、浅野晁汰（明石商 3）が 1 回目に 45m75 を記録し、迎えた最終投擲で大きく記録を伸ばし、49m60 と逆転優勝した。浅野は前日の円盤投と合わせて二冠を達成した。2 位には高田翔太（高砂南 3）が 48m97 を記録。5、6 回目とファールとなり、惜しくも浅野を逆転することはできなかった。

八種競技は、小西拓実（明石北 2）、寺尾周（西脇 3）、永田悠真（明石城西 2）、有末貫汰（加古川西 3）の 4 名が上位を争い、最終種目の 1500m まで勝敗がもつれ込んだ。小西は 4 分 53 秒 60 で 1500m では 6 位であったが、その他の種目でバランスよく得点を重ね、総合得点 5009 点で見事優勝を果たした。寺尾は 1500m では 2 位となる 4 分 40 秒 25 で快走したが、総合得点が 5006 点と、惜しくも 3 点差で小西に敗れた。

最終種目である **4×400mR** は、三木東総合の 1 走の八幡響（三木東総合 2）が安定したスタートを切り、2 走の岡田祐幸（三木東総合 3）、3 走の大久保朝陽（三木東総合 3）とバトンを繋ぐ。アンカーの榎本海斗（三木東総合 2）が粘り強く走り切った。接戦の中で明石商（3 分 25 秒 74）、社（3 分 26 秒 71）を振り切り、3 分 25 秒 65 のタイムで見事に優勝を果たした。

総合優勝した山田吾愛仁（社 3）は「チーム全体として広島 IH に向けて良いスタートができたかなと感じた。IH ということもあり特別な緊張感の中 1 人 1 人が責任をもって得点をとりに行くことができたため総合優勝に繋がったと思う。県大会、近畿大会もこの波にのって総合優勝を目標に日々練習に取り組みたいと思う。」と振り返った。

〔女子〕

1 日目最初の決勝種目である**ハンマー投**は、長谷川茜音（加古川北 3）が 2 回目に今大会唯一の 40m 台である 49m15 を投げ、優勝を決定する記録となった。他の追従を許さず圧倒的な強さを誇った。

棒高跳は、升元絢菜（明石商 3）と三浦千陽（明石商 2）が順調に跳躍を成功させ、3m50 まではほぼ互角の戦いであった。3m60 の高さでは升元が 1 回目の跳躍で成功をさせたが、三浦は 2 回目で成功させたため、無効試技の差で升元に軍配が上がった。3 位も同校の岩根小春（明石商 3）が 2m60 をクリアし、明石商業が表彰台を独占した。

100mH は、高巢楓子（明石西 3）と阿尾優栞（明石西 2）がともに 15 秒 28 でフィニッシュした。写真判定の結果、1000 分の 1 秒まで確認しても差がなく、同着 1 位と判定された。まさに手に汗握る大接戦のレースであった。

400m は、満永彩愛（西脇工 3）が前半から積極的にレースを引っ張り、59 秒 12 の好タイムで見事優勝した。同じく 59 秒台であった迫田優里（加古川北 3）が 59 秒 56 で 2 位、吉川万紘（白陵 1）が 59 秒 76 で 3 位となり、接戦を繰り広げた。1 年生での 59 秒台は今後の成長を大いに期待させる結果となった。

走高跳は、升元絢菜（明石商 3）が 1m45 から 1m60 まですべて 1 回目で着実に跳躍を成功させ、1m65 も 3 回目でクリア。1m68 は再び 1 回目で成功させ、強さを見せつけた。升元は同日に行われた棒高跳でも優勝しており、タイトな日程の中、見事二冠を達成した。升元は「自己ベストを大幅に更新できてと

ても嬉しかったです。高さが上がっていくにつれて気持ちが高まっていきました。諦めなくて良かったと心から思います。この勢いで県大会、近畿大会でも勝って、棒高跳びと高跳びの2種目全国大会出場します。」と振り返った。

円盤投は、安井理央（明石商3）が3回目までの記録で33m88とトップに立っていたものの、2位の谷河梢（明石商2）が徐々に距離を詰め、勝敗の行方は最後までわからない展開に。迎える最終投擲で谷河は34m69をマークしトップに躍り出た。逆転された安井は最終投擲で集中力を高め、これまでの記録を大きく超えた35m90をマーク、見事に逆転優勝を果たした。

100mは、山野麻緒（明石北2）がスタートから鋭い飛び出しを見せ、そのまま他の選手を寄せ付けずトップでゴール。向い風2.5mの悪条件の中、12秒23という圧巻の走りを見せ、見事大会新記録を樹立した。会場の歓声を一身に受け、山野は今大会の優秀選手に選ばれた。

1500mは、山本心愛（西脇工3）がスタートから自分のペースを貫き、徐々に集団を引き離すと、後半もその勢いを維持。ラスト1周ではさらにスパートをかけ、2位に約10秒の差をつける4分32秒64の好記録でフィニッシュした。他を寄せつけない力強い走りで、堂々の優勝を果たした。

4×100mRは、明石北の木曾希音（明石北3）、100m覇者の山野麻緒（明石北2）、田井里奈（明石北3）、松井美咲希（明石北3）の4人で力強いバトンパスを繰り返し、見事48秒42のタイムで優勝を果たした。2位の明石商も49秒80と好記録であったが、一步及ばなかった。

2日目最初の競技である**走幅跳**は、岡蒼依（小野2）が1回目から5m62（+2.1）の好スタートを切った。その後も5m53、5m57、5m59と安定した記録を並べ、安定した跳躍を見せた。1回目の5m62の記録を最後まで守り抜き、他の追従を許さずそのまま優勝した。2位の田井里奈（明石北3）は粘り強く記録を伸ばし、5回目に5m32（+2.2）をマークしたが岡を捉えることはできなかった。

3000mは、山本心愛（西脇工3）が序盤から安定したペースでレースをコントロール。後半にかけてさらに加速し、堂々の9分45秒12で優勝を果たした。山本は前日の1500mと合わせて二冠を達成した。2位には吉川陽菜（加古川西3）が10分00秒59で入り、トップとの差を詰めながらもしっかりと粘りのある走りを見せた。吉川は前日の1500mでは3位に入賞しており、安定した強さを披露した。

800mは、前日の1500mにおいて2位であった王野遥（東播磨3）が他を寄せつけない強さを見せ、2分17秒08の好タイムで優勝を飾り、2種目連続で表彰台に登った。2位には同校の荒木理緒（東播磨2）が2分20秒25でフィニッシュ。東播磨勢で1、2位を独占する結果となった。

400mHは、高巢楓子（明石西3）が序盤からリズム良くハードルをクリアし、終盤まで粘り強く走り続け、1分05秒96の好タイムで見事な勝利を飾った。高巢は前日の100mHと合わせて二冠を達成した。2位には同校の滝本鈴夏（明石西3）が1分06秒35と続き、チームとしての強さを示した。

200mは、前日の100mを制した山野麻緒（明石北2）が再び力強い走りを見せ、追い風0.7mの中25秒13で優勝。100m、4×100mRに続いての三冠を達成した。2位には松井美咲希（明石北3）が26秒85で入り、明石北がワンツーフィニッシュを飾った。

やり投は、尾田琴音（明石2）が1回目でこの大会唯一の30m台である32m06をマークすると、そのまま他を寄せ付けず優勝した。昨年のユース大会でも優勝しており、今後の活躍に期待できる。

砲丸投は、執行琴葉（社1）が序盤から好調で、3回目に10m88をマーク。そのまま10m88の記録で見事勝利を飾った。2位は前日に円盤投で優勝した安井理央（明石商3）。2回目に10m69を投げ執行を追いかけ、安定した投擲を見せるが惜しくも1位には届かなかった。

三段跳は、阿尾優菜（明石西2）が2回目に11m59を記録しトップとなると、4回目に田井里奈（明石北3）に11m65の記録で逆転されるが、6回目に11m80（-0.2）の大ジャンプを見せ、逆転優勝を果たした。

した。阿尾は前日の 100mH と合わせて二冠を達成した。

七種競技は、加茂冴奈（明石城西 2）がどの種目も安定感とバランスの良さが光り、3647 点で優勝した。特に 100mH（16 秒 28、680 点）や自身の専門種目である走高跳（1m51、632 点）で得点を稼ぎ、どの種目も集中力と落ち着きを持って挑む姿が印象的であった。

最終種目となる **4×400mR** は、西脇工が伊東昊映（西脇工 1）、満永彩愛（西脇工 3）、竹谷穂乃（西脇工 1）とバトンをつなぎ、アンカーは 1500m、3000m の二冠を達成した山本心愛（西脇工 3）が力強い走りを見せ、4 分 03 秒 05 のタイムで見事優勝を飾った。昨年の覇者である明石北は 4 分 05 秒 83 と惜しくも 2 位。3 位は明石西で 4 分 10 秒 48 と続いた。

総合優勝した安井理央（明石商 3）は「IH シーズンに向けてチーム全体が今まで練習を頑張ってきたのでこの結果に繋がったと思います。女子は少ない人数ですが、一人一人がチームのために点を稼いでくれたおかげで女子総合優勝をすることができました。」と振り返った。